



使いたおして  
お別れします

## 姫野カオルコ

紙を使う。よく使う。使いたおす。

食事の時、ティッシュで口をちよつと拭いたりする。拭いて捨てない。テーブルのはしっこにとっておき、食後に皿の油汚れを拭き取る。缶詰のカンに残った汁を吸わせたりする。こうすると排水口が臭くなるのを防げるし、家庭からの排水もずいぶんきれいにできるそう。スポンジも汚れが少なくてすみ、したがってすすぎも早くすむ。

顔を洗えば紙で拭く。洗面所にロール式のペーパータオルを置いてある。一枚切り取り、顔にべたべたと当てて水分を吸い取らせる。今どきのペーパータオルは優秀で、破れない。

拭いたらゴミ箱には入れず、干す。洗面所には三叉のふきんかけが置いてある。そこにかかる。五分もあれば乾く。半分

に裂く。それを猫瓶に入れておく。猫瓶というのは、お菓子屋さんでキャンディや煎餅を入れてあるガラスの瓶。あれの小さいやつを台所にかわいく置いておき、そこに入れるのだ。一度乾かしたものは互いに絡まないから瓶口から手をつこめば、ぱつと一枚が抜き取れる。コンロに油がとんだ時、カウンターにケチャップをこぼした時などにちゃちゃつと使って、ちゃちゃつと捨てる。

ただし、たんに水滴を拭いたくらいなら、つまり「まだ使える」と判断したら、今度はそれを部屋の片隅においた通気性のよい籠に入れる。これまた数秒で乾く。こちらは、床をチョツと汚した時にチョツと拭いて捨てるのに使う。

風呂上がりの足拭きも紙だ。職業から出版社から書類がよく届く。封筒で届く。その封筒を、風呂に入る前にハサミで大きく開く。シャワーの水がお湯になるのにやや時間がかかるから、それを利用してサツと濡らして、脱衣所のバケツにかけておく。シャンプーしたり体を洗ったりしているうちに乾く。これを風呂上がり用のバスマットに使う。今どきの茶封筒はご立派なのでサツと水をかけて乾いたくらいが足の水滴をよく吸ってくれる。服を着たら、封筒の住所氏名が記された



ひめのかおるこ●作家。滋賀県生まれ。青山学院大学文学部卒業。事務員のアルバイトの傍ら1990年『ひと呼んでミツコ』で単行本デビュー。2014年『昭和の犬』で第150回直木賞を受賞。作品テーマによって文体や雰囲気が異なり『受難』『ツイラク』『終業式』『ナルカエイティ』『整形美女』『リアルシンデレラ』など、ジャンルを超えて多数の著作がある。

部分をくり抜く。まだ湿っているので指で簡単にくり抜ける。くり抜いた部分はシュレッダーに。残りは資源ゴミの日にまとめて出す。一回ごとに新品バスマットは清潔で水虫知らず、徴知らず。長編のゲラで、推敲や校正の作業が終わったものは、はしっこに錐で穴を開けてノートにする。ホチキスは使わない。紐がよい。ちなみに長野県産か栃木県産のクレソンを束ねてある紐が穴に通しやすく長さもぴったりだ。

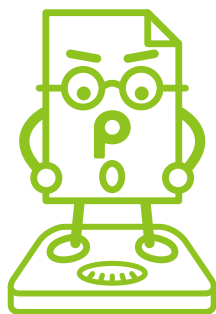
A4ノートのほか、半分につけてメモ用紙もつくる。何個も作っておく。鞆に入れて持ち歩きもする。何かを思いついたとき、バババつと遠慮なく使えて贅沢だ。使い終わったら、これもまとめて資源ゴミの日に。

こんなふうには紙をよく使う。使いたおす。机に向かって書いている時間が長いので首肩が凝る。ゲラの見直しをしながらストレッチをする。紙はポイ捨てしないが、凝りはポイ捨てしたい。

### ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

新聞紙だって、  
ダイエットしている。

ひと昔前、1㎡当たり52gだった重さは、今や43gが主流に。新聞紙はこの30年間でなんと約2割も減量しているんです。これが人だったら…と考えると、大変さがわかりますよね。新聞紙の減量は、資源の節約や輸送費の削減、印刷のスピードアップなどにもつながっているんだって。



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、  
「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。 <http://kamitsubu.com/>

今回は6月7日号、川淵三郎さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

文藝春秋 校閲部フロアにて

photo: Keiji Ishikawa